教育の道

〃 道徳の道ち基なかるべし

別紙は熊谷新次郎氏の作品にして

なのあり病身にあらざれば

て四人まで年少二十三年余にして未だ

拙さる前途の考なく何の家風と國

体の如き氏の事迹は大体氏あらん

事長には如きこと無いさ

けれども医学抗何をは極

只よきに謀ひ此くの如し

み對し何を四討の事ならん

のあるべく ○ 女子の一旦下嫁風に陸奥者の

其婚を結ぶるを強し ○ 熊谷氏の師

書面よりも慣あり 然れども目下の間

と 慣る雖の人と存し 妹の国孫を

孫来者下の西住三人 東原小保姫も

頃せたく たいろも心配

おこ 鈍異幸への事る而ちもらず

(7)

但し此婦人と長話をするのが世話焼きと言ふ
此婦人が谷中にて硬派の志士に比較
的大切の一番弟子にて只だ一人の
子にて
[illegible]り兄弟姉妹中の七子にて
[illegible]し家業に専心
せるものにて
[illegible]寺先生に
中山[illegible]
時を[illegible]
[illegible]人宅
[illegible]少を悔り又
[illegible]
[illegible]
[illegible]